





さうく人

西屋形

三十一



此書も亦母よりて名をすすむ或幸ありを
我見とて之を影名ありげきとてあけしうふや
世り利幸播たりあり一定し難し高きと
言ふこれ亦三のあひびうして由文はくく升
ゆづりも信へり喜よりとて坊々うけ
とあるとらん

内乃みとらん 白文ありは位より外あり
あふいぬある所くかハするよつあてハつと
志こやいありとてあひし一其のよとあり

いさばらるゝひ終るゝ也

清ふらあまうこおもする中あ也

今上乃石子の九人かりしきる中よはる実と
きほつ文とい文衣服や女この文の若^{わか}き
女清れらるゝやそおの六人の明^{あき}るの中文の
は股あく世とれはため清まき縁あくおはし
すすそれ中より白^{しろ}き一^{いつ}お^お文とバ別して
お^おこ^こま^まひ^ひく^く世^せれと世^せれそよとま^まひ^ひく^く也
わ^わく^くれ^れみ^みみ^みよ^よ 業^{わざ}のよ^よつ^つら^らら^らの^のり^りる^るも^もい^いこ^こな
く^くつ^つく^くこ^こそ^そよ^よと^とま^まひ^ひく^く也

お^お深^{ふか}い^いを^をお^おま^まね^ねび^び人^{ひと}と^とあ^あく^くこ^こら^らる^るて^てあ^ある

白^{しろ}玉^{たま}と^とみ^みじ^じ候^{こう}も^も幸^{さい}せ^せの^のあ^あく^くお^おり^りる^るも^もい^いこ^こな

ま^まい^いの^のひ^ひは^は也^也 業^{わざ}れ^れと^とま^まひ^ひく^くも^もい^いこ^こな

お^おい^いさ^さね^ねめ^めい^いも^も 色^{いろ}より^{より}い^いつ^つ世^せの^のと^と白^{しろ}き^き

は^は遠^{とほ}く^くあり^りし^しれ^れと^とあ^あり^りお^おり^りる^る也^也

お^おい^いさ^さま^まい^いお^おり^りる^るの^のお^おい^いさ^さま^まい^いお^おり^りる^るの^のお^おり^りる^る也^也

二^に条^{じょう}流^{りゅう}の^の死^しと^とい^いふ^ふも^もい^いふ^ふも^も

根^ねよ^よる^るも^もお^おり^りる^るの^のお^おり^りる^るの^のお^おり^りる^る也^也

佛^{ぶつ}り^りと^とあ^あり^りる^る也^也

お^おつ^つま^まい^いの^のお^おり^りる^るの^のお^おり^りる^るの^のお^おり^りる^る也^也

つぎのひのひ

漱石と云ふは海に浴する水ももつてまよひの海ありと

らうこそ少くも 嘯乃字こそつとよめり

難字解話曰 嘯吹發也 詩曰其嘯也 狹

事文類聚曰 諸葛亮在荊州遊學每晨夜

常抱膝長吟 易曰虎嘯風生

るくハ何よ 寝り結りす現のやうアハれり

長とこそつてるをれ世中ニ現あるあつてハハれ

おさぬくおのちとすりこり

是らう世の中は安んじあつてのまよひ河あり

白文おさぬくれハちハ何れとすらつてハハれ

せれあつてハハれつてハハれハハれハハれ

ハハれハハれハハれハハれハハれ

まらうハハれハハれハハれハハれハハれ

世ハハれハハれハハれハハれハハれ

何のハハれハハれハハれハハれ

ハハれハハれハハれハハれハハれ

ハハれハハれハハれハハれハハれ

おれハハれハハれハハれハハれハハれ

藤つハハれハハれハハれハハれハハれ

今れ有壺乃女流のちちとく昔のよく世なりと
ういふひとありつぎまふ也

二の文れいとうううおよすまふよと

昔の上とすうううよんひそのはちのせ
ふよく藤壺の女流は似あつうとありうあ
てあつぞおかりくれが藤壺の二の文とせ
まくおひとせなよすまふ成長れと
あうま立まふや

とくめくくくおつううくれが

とくもくくくおつううくれが

ゆかり品今のひくをす織りまうりか
うくれが有壺のまもれく二れまうむ
まくおれまうもれくても也

あふらあうて有壺未あうあう持也

文選友思魏都賦曰有醜曹容性

向醜醜慙兒也性うおしあうりとの教の

あうありまふ也

あふらあまこのおやううか茶よ母れ字とと

あやとよあり藤壺の二人の字よとまのれ

とれ今とらううれらううまううううお

うすすのあまうころりみれ母とりさんをか

うみとやほのみどりのくちりめすしや

ゆれとくしとせく

まのしえん 箏ハ素の蒙恬が造る

所とつう 沈痛箏賦曰箏長亦尺以恋

津教弦有十二象に時柱高之寸象三

つとつう 風俗通曰彈者用骨凡以竹指

そのま 其の音 箏く 然つ

りつとりのりつあじ 丸ありしや 捨時と書

おごりよりさひく 批の字よりふとより装

束とつとろひくは巻れゆくはさるるや

西宮抄 四七

しーのびりさぎやうりせし終り

ひら 細く書り 交さうは物 終りの也

うみりゆくいあぬらあうひありしうバ

葉字はあうり葉内たはあひく友をきん

つらひ月をそみーの月とつらあやと

うひとあうらとをさうらああじしうはあ

葉し落葉とのさのふいふあひうー

あふんさうーといつ双法也

ゆーやのせあーんしめあやーぬ

ゆのみと葉はよ回まよのせあーんとハ

おんごころにまよひてくさむのや

と世のあはれきりしをまじりし けみごとく白文と
しせし世はまじりきりしをまじりし けみごとく白文と
あひついでくさむのや けみごとく白文と
親ドクや 白氏文集に 菊華遺集 成
夢とくろく 過と 我がよろく 夢とくろく 過と
らんをまじりしをまじりしをまじりし けみごとく白文と
きりし 井中がめはけいしん 福澤八橋 菊華 日成
書 不説 遂事 不説 既生 不説 けみごとく白文と
くすのよろく けみごとく白文と けみごとく白文と

菊華遺集 菊華

とくすのよろく

けみごとく白文と
世はまじりきりしをまじりし けみごとく白文と
あひついでくさむのや けみごとく白文と
親ドクや 白氏文集に 菊華遺集 成
夢とくろく 過と 我がよろく 夢とくろく 過と
らんをまじりしをまじりしをまじりし けみごとく白文と
きりし 井中がめはけいしん 福澤八橋 菊華 日成
書 不説 遂事 不説 既生 不説 けみごとく白文と
くすのよろく けみごとく白文と けみごとく白文と
あひついでくさむのや けみごとく白文と
親ドクや 白氏文集に 菊華遺集 成
夢とくろく 過と 我がよろく 夢とくろく 過と
らんをまじりしをまじりしをまじりし けみごとく白文と
きりし 井中がめはけいしん 福澤八橋 菊華 日成
書 不説 遂事 不説 既生 不説 けみごとく白文と
くすのよろく けみごとく白文と けみごとく白文と

いふなりくありきしん

白くしんせしつらるる事らるるくハあり
きしんせしつらるる事らるるくハありハ

しんせし

ありしんせし 後をきくありしんせし

よありしんせし 三國誌 晉書 蔣琬

曰人心不同如其面從後言古人

之形讚也 史記曰汝無面從退

有後言

後しめしんせしのつらるる

聖賢抄 二二五

若しんせしつらるる内古作よのつらるる

乃らるるつらるるつらるるつらるる

つらるるつらるるつらるるつらるる

官加添しんせしつらるる

いしんせし 山崎氏考の考よしんせし

文のわかしんせしつらるるつらるる

つらるるつらるるつらるるつらるる

つらるるつらるるつらるるつらるる

つらるるつらるるつらるるつらるる

つらるるつらるるつらるる

とりやめぬや一月とて

川崎

とりこころ物はあはれ半年と暮あましとつらふ

わきよとてあはれあはれあ うちそくた美の一た

は娘母ハ内大臣の女や嫁意を人々みせとて

折嫁りこそまのり流又いそそくろあまを

推奉れあまよせのあく後よ常志大おあを

またのちりよあまひまひが徳角れあま

と方あつとせかあ

常陸守もこれあまのちりあく

のちの徳貞守あくあしと後よ常陸守

常陸守 百十

あまあつとせかあ 常陸守の嫁意よつとて

常陸守と移んころあまのひ大和や

あまれころあ

あまのこむいあまづりあまのこ

常陸守のあま方の名の名をそくろあまの

あまのここれあまのそくろあまのこ

あまのこあまのあまのこあまのこ

あまのこあまのあまのこあまのこ

あまのこあまのあまのこあまのこ

あまのこあまのあまのこあまのこ

葉のくさくさたるはみちて流るる也

作をもし流るるはみちるるはみちるるは
涅槃といふ天竺の流也これと震旦の
生不滅と翻るる所の常恒不變は
終るるは生滅の相なり元生は果報
つてて又生ひまじりせば元生は常在靈
物と流るるは又涅槃と滅度と翻るる
所一切元生は流るる世の常と流るる
とんたのり流るる滅は元生は元生
元生は元生と流るる今たのり元生は元生

乃らりりる流るる涅槃なり也

いふ所ののりりる流るる
摩訶心地觀經偈曰衆生沒在生死海無
五趣等出期善逝恒為妙法船能截愛
流超彼岸

まろ多んれ浪るるわがり 楞嚴經曰一切諸浮
華皆從妄想生 秀賢觀經曰一切葉後
海皆從妄想生 天台陳如章叙曰眼是大
海色是波濤愛此色故迴波於中又止
觀曰暴風卒至波如連山莊子曰白波如山

ある位とけわふいをぬりて
馬呼言薩借曰
有者諸法如幻如化三畏微傳奇二可也
高顯勢力自在各常沈至誰得存者如
室中雲須臾散滅

ゆこ世のあしきや
大集經借曰
及王位除命終時不隨者唯戒及施不
放逸今世後世為伴侶

法乃作

云々これ弟の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
善由大なる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
うと云ふ事と云ふ事
なりぬれことと云ふ事と云ふ事と云ふ事
法は今と云ふ事と云ふ事と云ふ事
あしきく自文よは位ゆかりあり
あしきくすくせのやと云ふ事と云ふ事
善乃及今と云ふ事と云ふ事と云ふ事
富せれ果報と云ふ事と云ふ事と云ふ事

と位乃らるれそ名 文は若くしては宮なり
ゆり之位は叙とせしむるなりそれよりさし置
てくふのひりしを名と著るなりいふに
くすひ位はしとあり高作の帝は名と
しりてくおぼしめすよりのて位は位
しよとせしむる也

あつらひしなり一は、世は位は名を著せり
きざひのくすひなりこれ父の著も今れ
しりて女解はしりてくすひなり
しりての著もあつらひしなり

まゝといふ位とせしむるなりと名よとせしむるなり
乃東の方なり文とつらしてしりてくすひなり
ともまゝといふなりとせしむるなり東の方角なり
まゝに字の首なり物生成れ根元也
天子の位位とせしむるなりと名よとせしむるなり
仁政徳澤とせしむるなり始ありとせしむるなり
まゝといふなりとせしむるなり
ありなり也 旨といふなりなりなりなりなり
そよなりなりなりなりなりなりなり

これ文は中書王として 中書字は唐なり

中書とつらふらわれぬとすぢなくかりじ
あれば死よあそくしてく名付とされし也

見すぐーわー

川方後於遠

おはあしおきていふ山橋をよととび老よ見すぢと

まいのあつとみまど ぼる紫れ方あや呂侯の

方れ中よ大まといふ方知がー

やり火れとゆるうく 古詩曰風射破窓

燈易滅月穿疎屋夢又難成 大業治日

生滅之法皆悉是空 生滅輪轉無常

と 彦時相似相續故妄見有実 猶如燈

雲後抄 わたこ

焰念く生滅凡支愚人謂為三焰 事文類聚

詩句曰万事風燭九原草 露

いとほしくじさ 唄が和名よ寂寞く書りまこ

田の字ととほくじまきとよありおひそまわ

て物さびーさみ也

せろ中やこやこれうういんさあくく

常園 日本化よあ 燈火とあきーらあま

世と照る月之れあよ中あられ園少やこれ海といえん

あきよいひひあつらあきもそれと宿かこぬうらう

大息つゝもあへず 賈誼陳政事疏曰 竊惟
制勝可為痛哭者一可為流涕者二可為長
太息者六と有り 相ありし時の大息つゝの
ありけりずしよハ不教れややいともつゝあ
どれ也
わうそはれはるるをそとくはせぬとつたの物と
不教ハうけ入るの也

是ハ肉のおもむき悲ひくはらへり
双鳥也 桑守れ中々 蕙れ中々 蔣妻
あびくすうはる月新ハのちつゝすれ

雲江抄

みすて

ことゝあはれは死中書まハ蕙のあびて友妻
うみまうとつた中々すて知り
あはれをせほゆくあはれはあみごと
涙れを総乃 願ハあひし時よ 蔣后ハ後り
あはれをほひく涙のあはれより 史記
あはれハあはれあはれあはれあはれあはれ
涙乃あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

元と唯ちうとちうのいまぐんがまけをくわいせつとまきまけま
之如黒餅今可丸名火驚指香亦名震
靈丸亦名返生香亦名入鳥精亦名却死
香丸有五名燒之香氣遠聞死尸在地
聞香乃活とつうしり司天主簿徐肇と
子一の藤氏れふよ徳欽とつ者りあつり
ふつうつとくおはよく返魂の香と稠合する也
とて香炉れ中よ一丸といひりこれバ香れ燈を
いねがまう徳欽こあつくりく東海の徐肇
まが足具と月人と欲す新ハ世香燈に寄し
りつうしり父母曾高之れ足つり徳欽が

雲笈抄 卷六

いふく死して八十年あつりあつりあつり
つうとらん百死谷の後棄りりる
そのありつとをうづりくつりあつりあ
唐乃玄宗を帝ハ安祿山が乱ハ休く蜀乃
圓り唐乃少師ハ馬嵬とつりあつりあつり
と後殺されまふ玄宗二丁を都ハゆりあつり
後り楊贵妃と名あつりあつりあつりあつり
つひなる道すゆりあつりあつりあつりあつり
りあつりあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつり

源時が長恨歌の傳りしゆ

志のぶれまをときとりにらまひ

川上松本いづれも思ふおほくも福徳の影かたてふにしよまをれ

さへ或人そむよあまき又あよとれて後方とらり

あえぬくつらぬて かえりきき書りのつらぬて

美やあやあしとらふとおめしゆ也

世にうくともよとあつていふと い世とて入てあ

あくつらふかや あ数系念多希劫とらひ一念

五百まといらふにぬこのら也

ききつらふとらふおとりに信りず ら浪踏き

雪隠所 廿七

めしひら白氏文集よらゆ又八園徒又ハ扶行

や書てなるづくきあつとよあり

後まきすくせろやど これより南代れ希の

はら過去世の因果れや あがりきる也

からしむる海北川 希のはらや あらりとを

おらつああやらの あらりら也

後撰わすれは あらりと あらりと あらりと あらりと

うら あらりと あらりと あらりと あらりと

けあのせとらつれ あらりと あらりと あらりと

とや あらりと あらりと あらりと あらりと

わがゆゑなるものやのそとつらんをれに母もと現はる
百葉
と日月はちよみぬちかぬれをぬきぞりいふとては
ふ葉のくへ せほゆくほゆとていりぬ人又の葉屋
らまるといふゆゆよをりてくれがゆゆの候きと
りふ今ハニ葉れんらりや也
むとらうらゆあやうおのひまうては
ほふハ世れうめうまよ俵とてゆゆよおれ
ひとゆとておりにくると葉ゆつむとて又つじ
ふうゆゆひくをゆゆりりてはゆひのうら
さあてらゆゆひゆのひまうらう人も也

雲居抄 五十八

きとひうたつてゆぐともも ほふすてよおあて
かハきとをゆゆはゆりゆとてまぼくをめあ
おあ家とちとて持飛乃はは屋と犯とば
葉律れはよハ五逆飛の報よとらされハあ
きとひうたつて飛よハちづむともせとるや
ひとまをいひとやうらすとて一階と書きてい
とまをいひとよあり葉つたおとてよ内たたま
でゆあがりもへハ世の名ゆハおりてはゆ
らうとてんかや
身とらうらうらじとてハ 世の世れありゆ

及らばうらやましくやすすまてあふよ幸光かと
とくく凡が道れかめいもめらるくハ叶ふに
只身も健ある時^{すくやう}の^よもきでりて董れんや
何ぞも多れ^{いひ}はよりぬん幸れりんもぞや
とらふ方の^ふあとも^あひ^ひ下^りや^り一^つも^もハ^ハ也^也
りあひ也

あつは^あつ^つ今^いら^らと^とぬ^ぬん^ん何^なよ^よと^と情^{じやう}こ^この^のひ^ひも^もあ
病^{やま}者^{もの}海^{うみ}偈^ぎ曰^い感^{かん}年^{ねん}一^{いつ}多^た患^{わづらひ}時^{とき}懈^{ゆる}怠^{たい}不^ふ精^{しやう}進^{しん}一^{いつ}貪^{こん}
言^{こと}矣^や事^{こと}勢^{せい}力^{りき}不^ふ修^{しゆ}施^せ戒^{かい}律^{りつ}一^{いつ}除^{じゆ}者^{もの}死^し可^か不^ふ香^{かう}
方^ま悔^{くわい}來^{らい}依^い善^{ぜん}也^也 江^か般^{はん}未^み信^{しん}曰^い誓^{ちか}如^{ごと}燈^{とう}燈^{とう}唯^{ただ}賴^{たの}

云云 卷十九

膏^{かう}油^ゆこ^こ既^{すで}盡^{じん}勢^{せい}不^ふ久^く停^{てい}人^{にん}亦^{また}如^{ごと}是^し唯^{ただ}
賴^{たの}壯^{さう}膏^{かう}既^{すで}盡^{じん}衰^{すい}光^{かう}之^の炫^{けん}何^{なに}得^え之^の久^く停^{てい}
李^り卓^{たく}吾^{われ}海^{うみ}士^し爰^{こゝ}曰^い古^こ人^{にん}向^{むか}云^い莫^な待^た老^{らう}來^{らい}方^ま
字^じ道^{どう}孤^こ境^{きやう}盡^{じん}是^し少^{せう}年^{ねん}人^{にん}
人^{にん}あ^あも^もく^くか^かこ^こひ^ひ 之^の糸^{いと}の^のう^うあ^あも^もく^くは^はひ^ひて
出^いあ^あは^はは^はあ^あこ^こら^らひ^ひゆ^ゆの^のあ^あも^も也^也
す^すて^てく^くな^なもの^{もの}こ^こら^らり^りて^てな^なと^とつ^つる^る空^{くう}の^のひ^ひり
途^と岐^ぎの^のな^なを^を辨^わつ^つじ^じに^にか^かこ^こも^もつ^つる^る實^{じつ}然^{ぜん}久^くも^もあ^あら^ら
あ^あら^らる^る分^{ぶん}り^りこ^ここ^こあ^あひ^ひと^とう^うあ^あひ^ひた^たと^とこ^こり
と^とあ^あれ^れる^る人^{にん}あ^あら^らよ^よか^かハ^ハセ^セと^とい^いは^はれ^れが^がす^すと^とう^う好^{こう}を

と申すは本と云ひぬが堪ぬが丹叶く
くしりぬぐーとてまうけしとらう

わしぬぐれとぬすすまぐぐあやあぐり

陰舟のらひをさひとすまらま路のまもせ

志まの海舟のあやかりたる所は甚るるあ

がま新とさひとるさぬと傍那の路りま

まうあやあぐの舟ぬぐあやーま戸であとふ

らや又あやあぐのあやあぐまといふあやあぐ

歌お通あうといふ

ほまはとうやうまうくあじうぐ村もこひあうあ

書屋抄 六十

あやあぐのあやあぐあぐぬらあぬぐがさう

丹といふあやあぐ

舟ぬぐあやあぐのあやあぐ

まうのあやあぐあやあぐあやあぐあやあぐ

静めくはあやあぐ

すまうぬらあやあぐ 傍那の河や舟結する

はらあうと感トPさうや

あやあぐのあやあぐあやあぐあやあぐ

甚るるあやあぐあやあぐあやあぐあやあぐ

がやあやあぐあやあぐあやあぐあやあぐ

うらなぐたむとらみ内れ七言外の七言と云ふ
思のしほ延延本よりゆ選子内親王
弟れ女あくよとせ信より

思ふといふとていぬとされその風ふたてきおほをれ
今子思みずきとせりよとて戒とてあさ
あひとてあや

すきのくもぐれつめーさ
出家功德作して一
来りありその外信信よおろくおあれ功德と
とれたるうらなまのうらよのあおのし思よおほ
あよとてあや

重信抄 卷二

はこつうごころひりぬ
あまのこころはこつ
動揺一終るぬ也

はこつうごころひりぬ
相れぬぬが気まこと貴れ
擬回生る特愛いれれ吾明の帳中よ
高想れあまのゆやせれきよと夢とてうとて
摺教の意識とも言勝れ意識ともいふ
きり思くつりとなりつと明るれ意識のあ
けり寝ても思くとも昔よ生れの中乃若や
とつあはよ大業の案系ハは般の格よと
思くれば言識れ上乃知際あく速あれあ

なりは死地曰無生處に看引之今得出
とつちまはま死に候をわづらひて看とてあはれ
とまのほろとつち也

かゝるのやうにあらはれ候と 董れ方候は
物理に自家をたれまてくまへおへて候
おまはひりしき一とが幸ひの宣候やう
けよ起る吾意に候自性あり候あつても
まゝとて候に候とて候に候に候に候に候
せいのとて候に候に候に候に候に候に候
えいこのまはれ人の飛ぶまのまゝとて候に候

雲に舟 ちんちん

みくもつとて候に候に候に候に候に候
ひ例あり

ふつとて候に候に候に候に候に候
は候とて候に候に候に候に候に候
とて候に候に候に候に候に候に候
けあより或幸ひは候とて候に候に候
とて候に候に候に候に候に候に候
候とて候に候に候に候に候に候に候
とて候に候に候に候に候に候に候
とて候に候に候に候に候に候に候

候とて候に候に候に候に候に候に候
候とて候に候に候に候に候に候に候

付巻の小抄と云ふ事あるは、つとて、
目果經曰過去諸佛、為彼佛、各上菩提、故捨
飾好剃鬚髮、則教示、云今啓髮、故
与一切衆生、斷陰煩惱、及以習氣、
きやすれ、乃いとす、と、 蓋れ、何や
り、と、より、乃、 蓋、より、信、都、の、何、也
由、と、れ、乃、いと、と、れ、蓋、よ、れ、ら、て、乃、断、陰、煩、惱、と、
ゆ、と、す
は、此、經、曰、諸、法、常、滅、相、不、可、以、言、言、
身、て、い、ろ、り、り、と、め、く

雲居抄 古本

舎、中、と、り、の、名、を、為、れ、ん、我、が、ん、も、と、り、の、名、を、
孟子曰、人有難大教、則知求之有教、心
而不知、求、と、つ、り、只、我、が、ん、と、五、聲、六、欲、の
ため、よ、を、棄、れ、去、り、く、速、と、り、也、行、今、と、我、が
ん、と、ば、求、ぶ、ん、よ、ら、ひ、く、道、と、求、り、は、口、情、心、也
ひ、ら、れ、蓋、も、 古、德、曰、實、深、之、理、也、不、受、
一、若、佛、事、門、之、中、不、捨、一、法、と、つ、り
真、諦、自、性、の、理、ハ、方、け、一、如、れ、も、信、持、
級、起、の、相、乃、西、丹、ハ、各、別、れ、乃、な、れ、か
う、ん、は、若、有、よ、ん、ハ、堂、れ、理、と、ら、り、て、一、若、



